







## 地盤技術フォーラム2018 セミナー 東5ホール特設会場 **聴講無料** (27-G3, 27-G4, 28-G6のみ有料)

(セミナー講演内容はWebサイトに掲載しております。また、プログラムはやむを得ず変更になることがあります。最新情報はWebサイトでご確認ください。)

26日(水)		
G会場	地盤技術フォーラム 基調講演	26-G1
10:30-11:15	<b>多様化する地盤改良技術と地盤汚染対策への適用</b>	
地盤工学は地盤環境をめぐる多様なリスクを回避するために、数多くの貢献を果たしており、特に我が国の地盤改良技術は実用の技術として国際的にも高い評価を得ている。これら地盤改良技術の特徴と多様な適用性を解説し、災害廃棄物処理への適用や、地盤環境の汚染対策への展開などについても触れる。		
京都大学名誉教授 環境地盤工学研究所 理事長 嘉門 雅史氏		
11:15-12:00	<b>大震災の起きない都市を目指して</b>	
日本学術会議では「大震災の起きない都市を目指して」としての提言を昨年8月に発表した。現在の我が国のように非常に高密度の建物や機能が集中している都市に多くの人や組織が集まっているところでは、いったん大地震に遭遇すると社会システムの崩壊なども含めて悲惨かつ甚大な震災となりうる。これを防ぐためにはハード的な対策とともにソフト的な対策も含めた事前の対策が必須である。これらについて都市の将来を見通して何をなすべきかについて述べたい。		
東京工業大学名誉教授/日本免振構造協会 会長/元・日本建築学会 会長 和田 章氏		

F会場	土壌・地下水浄化技術展セミナー	26-F1
13:00-	<b>改正土壌汚染対策法について</b>	環境省 水・大気環境局 土壌環境課 課長補佐 中村 雄介氏
14:00-	<b>都における土壌汚染対策制度の見直しに係る検討について</b>	東京都 環境局 環境改善部 化学物質対策課 統括課長代理(土壌地下水汚染対策総括担当) 名取 雄太氏
15:00-	<b>クロロエチレン及び1,4-ジオキサンに係る調査・対策について</b>	(一社)土壌環境センター 技術委員 鈴木 圭一氏

G会場	基礎工技術展セミナー	26-G2
13:00-13:40	<b>道路橋技術基準について</b>	(一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会 代表理事 岡原 美知夫氏
13:40-14:20	<b>建築物の杭基礎における最近の話題</b>	パイルフォーラム(株) 取締役副社長 桑原 文夫氏
14:30-15:10	<b>最近の港湾構造物における基礎工</b>	東京理科大学 理工学部 土木工学科 教授 菊池 喜昭氏
15:10-15:50	<b>最近の鉄道構造物における基礎工</b>	(公財)鉄道総合技術研究所 構造物技術研究部長 神田 政幸氏

27日(木)		
F会場	土壌・地下水浄化技術展セミナー	27-F2
	<b>不動産取引における土壌汚染トラブル予防のポイント</b>	主催:特定非営利活動法人 イー・ビーイング Land-Eco 土壌第三者評価委員会
10:30-11:10	<b>土壌汚染関連事件から考える土壌汚染トラブル予防</b>	牛島総合法律事務所 弁護士 井上 治氏 
11:10-11:35	<b>土壌汚染調査・対策の信頼性を高める第三者評価</b>	Land-Eco 土壌第三者評価委員会 委員長/サウンドソイル研究所 所長 川地 武氏 
11:35-12:00	<b>井上氏、川地氏、イー・ビーイング 理事長 井上健雄氏の3名によるディスカッション</b>	

G会場	有 料	地盤改良技術展セミナー	27-G3
		<b>第15回「軟弱地盤の改良」技術講習会 ※土木学会認定CPDプログラム</b>	主催:月刊誌「基礎工」(株)総合土木研究所

軟弱な地盤のうえに地震の多い我が国では軟弱な地盤の改良は常に建設工事の中心課題の1つであります。それだけに改良工法の発達も目覚ましく多種多様の工法が開発され活用されています。今回はその技術の最近の動向や品質管理の基準・手法などを経験豊富な講師陣から学びます。

10:30-11:10	<b>深層混合処理技術の最近の動向</b>	東京工業大学 環境・社会理工学院 土木・環境工学系 教授 北詰 昌樹氏
-------------	-----------------------	-------------------------------------

11:10-11:50	<b>建築における地盤改良の品質管理</b>	(一財)ベターリビング 上席参与 二木 幹夫氏
-------------	------------------------	-------------------------

11:50-12:30	<b>静的締固め地盤改良の品質管理</b>	港湾空港技術研究所 地盤研究領域 地盤改良研究グループ 主任研究官 高野 大樹氏
-------------	-----------------------	--

**【申込先】 総合土木研究所 <https://www.kisoko.co.jp/conference/index.html>**

F会場	地盤改良技術展セミナー	27-F3
13:00-	<b>目からウロコの地盤改良技術</b>	早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科 教授 赤木 寛一氏

14:00-	<b>大深度・高水圧下での大規模凍結工法を用いたセグメントの地中拡幅工事</b>	東京都下水道局 第一基幹施設再構築事務所 工事第一課 課長 重野 達史氏
--------	--	--------------------------------------

15:00-	<b>地下鉄の最近の工事と地盤改良</b>	東京地下鉄(株) 改良建設部 技術基準担当部長 小西 真治氏
--------	-----------------------	--------------------------------

G会場	有 料	基礎工技術展セミナー	27-G4
		<b>第10回パイルフォーラム技術交流会 「建築における杭基礎の技術動向と展望」</b>	主催:パイルフォーラム(株)

杭基礎は建築構造体を安全に支える重要な役割を担ってきた。しかしそれ自体が地中にあり目に見えないことから、注目される存在とは言い難い面もあった。だがいったんその性能に齟齬があると大きな不安要素となり社会的な問題にもなりうるのが改めて認識された。そのような意味から、報道という別な視点からの課題と今後の方向について基調講演をいただくとともに、建築杭基礎構造分野の第一人者の方々に、最新の技術動向を明らかにしたうえで、今後の展望についても提言して頂き、本テーマの認識を深めたい。

<b>基調講演</b>	
13:00-13:30	
<b>報道から見た杭基礎問題</b>	NHK 解説委員 中村 幸司氏



<b>各分野の技術動向と展望</b>	
13:30-14:00	
<b>杭基礎の鉛直支持力</b>	大成建設(株) 都市基礎技術研究部 構造研究室 主幹研究員 長尾 俊昌氏

14:00-14:30	<b>杭基礎の耐震問題</b>	東京工業大学 環境・社会理工学院建築学系 准教授 田村 修次氏
-------------	-----------------	---------------------------------

14:30-15:00	<b>既製杭の施工法</b>	(一社)コンクリートパイル建設技術協会 施工委員長(三谷セキサン(株)) 木谷 好伸氏
-------------	----------------	---

15:00-15:30	<b>場所打ちコンクリート杭の施工法</b>	(一社)日本基礎建設協会 技術委員会委員長(東洋テクノ(株)) 宮本 和徹氏
-------------	------------------------	--

15:30-16:00	<b>質疑</b>	
	<b>【申込先】 パイルフォーラム <a href="https://goo.gl/forms/KwGb4nQ2virP99Zr2">https://goo.gl/forms/KwGb4nQ2virP99Zr2</a></b>	

28日(金)		
F会場	土壌・地下水浄化技術展 特別講演	28-F4
10:30-11:15	<b>「除染」「中間貯蔵施設」の進展と未来志向の取組に向けて</b>	
東日本大震災から丸7年を超え、復興の基盤となる除染、中間貯蔵施設なども、よりの確に、地域のニーズに向き合って進めていく。また今後の地域の再生に参画する取組にも注力したい。		
中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO) 代表取締役社長 小林 正明氏		
11:15-12:30	<b>放射能汚染廃棄物等の処理・処分への対応</b>	
事故後、東日本の広範で実施されてきた放射能汚染廃棄物等の処理・処分について、技術的なフォローアップとして実施してきた研究活動について報告し、今後に向けた研究的取り組みについて紹介する。		
国立環境研究所 福島支部 汚染廃棄物管理室 室長 遠藤 和人氏		

F会場	地盤改良技術展セミナー	28-F5
	<b>【セメント系固化材セミナー】</b>	主催:(一社)セメント協会

セメント系固化材は土を固めるためのセメントとして、1970年代にセメントメーカーが開発した。2017年度の販売実績は829万トンとなり、地盤改良材料として全国各地で活用されている。本セミナーでは、セメント系固化材の概要や固化の原理、最近の適用事例とともに、自然由来の重金属等を含む発生土の有効利用におけるセメント系固化材の活用について紹介する。

**セメント系固化材を用いた地盤改良工事の報告書が、セメント協会ホームページより無料ダウンロード**(<http://www.jcassoc.or.jp/cement/1jpn/jf8a.html>) できます。

13:00-14:00	<b>土を固めるセメント系固化材</b>	セメント協会 セメント系固化材普及専門委員会 PR-WGリーダー 河本 年史氏
-------------	----------------------	---

14:00-15:00	<b>セメント系固化材の拡がる用途と役割</b>	セメント協会 セメント系固化材普及専門委員会 委員長 斎藤 準護氏
-------------	--------------------------	-----------------------------------

15:00-16:00	<b>発生土の利用と自然由来物質 - 「手離れのよい事業」をこえて</b>	京都大学大学院 教授 勝見 武氏
-------------	---------------------------------------	------------------

**【申込方法】** Webサイトよりお申し込みください。 **www.sgrte.jp**

G会場	基礎工技術展セミナー	28-G5
	<b>「最近の地下工事」</b>	
10:30-11:00	<b>地下は技術開発の宝庫である</b>	広島工業大学 客員教授 宮崎 祐助氏
11:00-11:40	<b>近接構造物と地下工事</b>	清水建設(株) 技術研究所 リサーチフェロー 桂 豊氏
11:40-12:20	<b>都市部での最新地下施工技術</b>	(株)竹中工務店 技術研究所 専門役 青木 雅路氏

G会場	有 料	基礎工技術展セミナー	28-G6
		<b>第11回「これからの戸建て住宅基礎・地盤」技術講習会</b>	※土木学会認定CPDプログラム 主催:月刊誌「基礎工」(株)総合土木研究所

地震や豪雨などの自然災害による住宅被害は一般建築物に比べてかなり多い。その原因は、住宅がRC造やS造の一般建築物に比べて極端に軽量なため地盤や基礎をそれほど強固にする必要がないことに加えて、斜面や擁壁の調査・診断・対策に多額の費用を投資できない経済的な制約等が挙げられる。このような宅地や住宅事情に鑑み、近年の自然(地盤)災害による住宅被害から見えてくる課題や被害を防止・軽減するための方策を解説する。

13:00-14:00	<b>近年の地盤災害を踏まえた傾斜地や擁壁と住宅基礎の課題</b>	(一財)ベターリビング 上席参与 二木 幹夫氏
-------------	-----------------------------------	-------------------------


14:05-15:05	<b>宅地における斜面・擁壁の調査・診断・補強のポイント</b>	(株)カヌカデザイン 代表取締役 鹿糠 嘉津博氏
-------------	----------------------------------	--------------------------

15:10-16:10	<b>斜面や擁壁近傍の宅地における住宅の地盤補強や基礎計画のポイント</b>	旭化成ホームズ(株) 技術本部 地盤技術開発室長 伊集院 博氏
-------------	--	---------------------------------

**【申込先】 総合土木研究所 <https://www.kisoko.co.jp/conference/index.html>**

## 同時開催展示会合同企画 **聴講無料** 【申込方法】 Webサイトよりお申し込みください。 **www.jima-show.jp**

<b>■ 基調講演①</b>
<b>9月26日(水) 11:00~12:00</b> 【会 場】レセプションホールA 【講 師】経済産業省 製造産業局

<b>■ 基調講演②</b>
<b>9月26日(水) 13:30~14:30</b> 【会 場】レセプションホールA 【講 師】ロボット革命イニシアティブ協議会 事務局長 久保 智彰氏 
「ロボット革命の進展とIoTによる製造ビジネスの変革」
2015年に設立されたロボット革命イニシアティブ協議会のこれまでの活動成果と今後の展望を紹介する。ロボットに関しては利活用推進およびイノベーション加速、IoTに関しては国際標準化、セキュリティ、中堅中小企業支援などを活動の対象としている。ドイツのインダストリー4.0をはじめとする各国の団体との連携状況についても紹介する。

<b>■ JIMA2018 第9回総合検査機器展【ロボット特別セミナー】</b>
<b>9月27日(木)</b> 【会 場】東4ホール セミナー会場A 【企画協力】日本工業出版(株) 月刊「検査技術」

時間	タイトルと概要
11:50-12:30	<b>インフラ点検用ロボット等の開発・普及に向けた経産省の取り組みについて</b> 講演者:吉村 俊厚氏 経済産業省 製造産業局 産業機械課 ロボット政策室 室長補佐 (ロボット政策担当)
13:00-13:40	<b>福島ロボットテストフィールドの概要と役割</b> 講演者:中村 敬氏 一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 ロボット事業部 部長
14:10-14:50	<b>災害対応向け防爆自走ロボット開発とデュアルユース構想</b> 講演者:大西 献氏 三菱重工業株式会社 パワードメイン原子力事業部 機器設計部 技監・主幹技師
15:20-16:00	<b>産業プラント向け配管検査自走ロボットシステムの実用開発</b> 講演者:三浦 到氏 三菱ケミカル株式会社 鹿島事業所 設備技術部 SSMTグループ